

特集 2018年を振り返る

序章 2018年の出来事



「2018年を振り返る」執筆チーム

平成最後の年末、いかがお過ごしでしょうか。改めて2018年を振り返ると、さまざまな脅威が現実のものとなった1年といえるだろう。本稿の執筆チームが選んだ主だった出来事は下表のとおりである。

時期	出来事
1月	コインチェックから仮想通貨が流出
2月	平成30年豪雪（福井） 羽生結弦選手が五輪2連覇
3月	霧島連山・新燃岳で7年ぶり噴火 トランプ米大統領による追加関税が発動
4月	鳥根県西部地震
5月	是枝裕和監督「万引き家族」がカンヌ国際映画祭でパルムドール受賞
6月	初の米朝首脳会談が実現 大阪府北部地震 日本がサッカーW杯決勝トーナメント進出
7月	平成30年7月豪雨（西日本豪雨）
8月	山口県で行方不明の2歳児をボランティアが発見
9月	台風21号で関西国際空港利用不可 北海道胆振東部地震 全米オープンで大坂なおみ選手が優勝
10月	築地市場から豊洲市場へ移転
11月	米国中間選挙

日経平均株価がバブル期以降の最高値を記録するなど経済面は好調であるが、さまざまな課題も顕在化しつつある。

今後、数年間で多くの中小企業において経営者が平均引退年齢を迎える。事業承継問題が、例年にも増してクローズアップされた。

また、総務省が7月に発表した人口動態調査によれば、生産年齢人口は6割を切っており、地方では人口の減少が著しく進んでいる。その中で、いかに効率的に生産性を向上するかが課題となった。

さらに、今年は自然災害が頻発した。日頃から備えることの重要性を改めて実感させられた年であった。

地域金融機関の役割が見直される中で改正された信用補完制度。

「トランプ関税」に代表されるように、今後よりも海外展開が難しい世の中になることも予想される。

そして、今後、世の中でより普及することが見込まれる人工知能やRPA。

いずれも今後、重要になる論点であり、それぞれが中小企業診断士の仕事とかかわってくる。

本特集では、この2018年の出来事やテーマを振り返り、それぞれが中小企業に与える影響と、果たすべき中小企業診断士の役割を考えたい。知識を習得して変化に「備える」ことの重要性を改めて認識するきっかけとなれば幸いである。